勝利に導く演舞を　県立松山高校応援団　名細公民館で

名細公民館で活動をする「男のゆうゆう塾（斉藤誠代表）」「男の生涯現役学」共催で県立松山高校応援団による演舞が一般公開された。

現在の応援団構成は１年生４名２年生１２名の１６名。この日は吹奏楽部とのコラボレーション。応援団小高リーダー長は川越市立霞ヶ関西中出身。その他にも川越出身の団員がおり親近感がわく。応援団といえば、太鼓の響きも欠かせない。太鼓の音に見学者の赤ちゃんもびっくり。しかし、気迫あふれ、集中力と団結力の演舞に、名細地区の子供たちは「かっこいい！」とため息。

松山高校応援団は学校創立２年後の大正１４年１１月、当時の川中（現在の県立川越高校）対抗戦や体育祭のために発足。しかし、昭和４７年の卒業生を最後に休部状態に。しかし昭和５６年に復活運動がおこる。その先頭にたったのが現在、東松山市議会議員　齋藤雅男氏だ。その熱心な行動は実を結び昭和５７年に応援団は見事復活。さらにOBによる熱血指導、現役学生の気力、体力、知力、そして根性の相乗効果で現在に至っている。

齋藤雅男市議は「団が後輩に引き継がれ、途絶えずに現在も活動をしている。これはOBと後輩の現役のお陰。感謝と敬意の想いでいっぱいです。応援団は私の青春そのもの。がんばれ松高応援団」とエールをくれた。

人生を振り返るとき、高校生活の３年は特別な色を持つ。その時代の松高応援団の勇姿。鮮やかだ。